

日本篆刻家の研究

——山田寒山年譜稿——

熊本大学 神野雄二

一 はじめに

これまで、日本や中国における印章や篆刻家に興味を持ち、それへの史的考察や作品研究をテーマに据え論考を発表してきた。日本の篆刻家の研究、主として高芙蓉研究、並びに彼を祖とする芙蓉派の一系譜と目される^①、源惟良、小俣螭庵、福井端隠、山田寒山、山田正平等の事跡の調査・研究と作品分析、そして印学の継承とその発展を探ることを問題としてきた。

また、わが国の印人伝における唯一の専著といえる中井敬所の『日本印人伝』^②をさまざまな文献・資料より拾遺し補訂することを課題としている。篆刻の専家はもちろん、篆刻に関わる傍系の文人・芸術家の研究を併せて進めている。

山田寒山（安政三〜大正七年（一八五六〜一九一八）^③は、名は潤子、寒山と号した。禅宗永平寺派の僧侶を務めた。元来彼は多芸多才で、詩・書・画・篆刻・陶芸すべてを善くした。詩情を醸した感興豊かな作風による篆刻家、書画家として近年とみにその名が喧伝されている。

寒山に関する文献・資料で公刊されたものはむしろ少なく、東京に住する山田家の収蔵品が大部分であろう。筆者は四十数年にわた

り山田家に収蔵する資料の整理・調査にあたらせていただいてきた。本稿では、山田家に所蔵される寒山関係の新聞記事の切り抜きを貼り込んだ「明治・大正期山田寒山関連新聞資料」（『寒山新聞』^④と称す）などを基に年譜を編み、彼の生涯に関して論究するものである。

二 年譜を編むうえでの主たる資料・文献

山田寒山に関する詳細な伝記はまだ編まれていない^⑤。筆者が「山田寒山研究②篆刻について（下）」（『修美』第一二巻通第四二号、修美社、一九九三年四月）において、年譜を作成したのが、最も詳細なものといえる。

まず寒山の伝記を編む上での主たる資料を挙げ、若干の略解を施しておく。

1、「明治・大正期山田寒山関連新聞資料」（『寒山新聞』）

山田家に蔵する『寒山新聞』は、四十年前に、複写させて頂いた。その後数度拝借、調査・研究させて頂いたが、劣化や落丁箇所も見られ、私蔵のコピー資料が最も原型を留めているかと思われる。

同資料の採録対象紙は広範で、東京や大阪の主要紙のみならず、地方紙や外地紙に亘っている。また、同一内容記事を複数採録して

いる。

同資料は、全てで五冊からなる。スクラップ帳は、二段もしくは三段組みの予め枠が朱色で印刷された台紙に、新聞の原紙の切抜きを貼付したものである。寒山名の記事部分に朱線が施されている。また各段に新聞名と日付が印刷もしくは手書きされている。手書きは、墨や朱書きによるもので、木村竹香⁶と寒山本人の手になる。

- ① 第一冊 縦三〇・二×横二二・三糎、二〇〇頁
- ② 第二冊 縦二九・八×横二二・七糎、二〇〇頁
- ③ 第三冊 縦二六・〇×横三六・八糎、七四頁
- ④ 第四冊 縦二四・五×横一七・五糎、七六頁
- ⑤ 第五冊 縦二八・五×横一八・五糎、一三一頁

同『寒山新聞』の記事で伝記に関係する主たる記事は、以下の通りである。⑨～⑬の記事の掲載誌等は不明である。

- ① 「中央舞台の愛知県人（四八） 僧侶山田寒山」（『新愛知』大正三年五月）
- ② 「寒山寺の鐘声」（『満州日日新聞』明治四十年）
- ③ 「寒山和尚の懐旧談（二）」（『六〇』）（『新愛知』明治四十年六月六日、七日、八日、九日、十日、十一日）
- ④ 「毎日譚海 山田寒山（二）」（『四』）（『毎日新聞』明治三十五年三月二日、三日、四日、五日）
- ⑤ 「寒山一夕話（二）」（『三三』）（『北越日報』四月二十一日、二十二日、二十三日）
- ⑥ 「山田寒山翁を訪ふ」（『海南新聞』明治四十三年四月十日）
- ⑦ 「応接室、山田寒山師」（『東京毎日新聞』明治四十三年四月二十二日）

- ⑧ 「百人一話」（山田寒山氏の篆刻流派談（上）（中）（下））（『東京日日新聞』（中）は、明治四十年十月二十五日）

- ⑨ 「鉄琴遺韻（二）」（『九』）山田寒山氏談（四月二十七日、二十八日、二十九日、三十日、五月一日、二日、三日、四日）

- ⑩ 「鉄筆閑話（山田寒山師談話）」

- ⑪ 「変物画伝（二）」（伊藤公に愛せらるる樂焼の寒山師）

- ⑫ 「寒山寺譚り」

- ⑬ 「樺松楼の一夕」

2、『寒山手控え帳』

山田寒山自筆墨書による手控え帳である。縦三一・〇×横一・八糎、五三丁。

内容は、年表や、漢詩、住所等多岐に亘っている。寒山の若年期の足跡が分かる。

3、山田正平執筆による記事

「山田寒山・河井荃廬」（『近代日本の教養人』実業之日本社、一九五〇年六月）山田寒山の生涯と正平の生涯が『寒山新聞』の記事を基に記述されている。

4、水田紀久『続補日本印人伝』

中田勇次郎編『日本の篆刻』（二玄社、一九六六年十一月）の水田紀久『続補日本印人伝』は、山田寒山に関する記述がある。

名は潤子。愛知の人。長崎に小曾根乾堂を訪ね、伊勢の福井端隠に師事。大阪天満寒山寺に滞留、号を名乗る。上京。中国蘇州寒山寺住職となり、夜半の鐘の新鑄に努む。大正七年（一九一八）十二月二十六日没す。六十三。羅漢印譜あり。

5、『篆刻家略伝』

架蔵本『篆刻家略伝』は、筆者が某古書肆にて購入したものである。鹽谷長坪所有印のある岸本昌齡稿本『篆刻家略伝』である。これは北川博邦先生が「日本印人伝」（伏見冲敬編『印人傳集成』汲古書院、一九七六年十一月）で触れている。岸本昌齡による日本の印人略伝についての自筆稿本で、他に明治・大正期の篆刻に関わる記事の切り抜きが貼付されている。これには山田寒山に関する記事として、「陶画篆刻の名人山田寒山翁今朝逝く」が貼りこまれている。同資料は、中井敬所の『日本印人伝』、水田紀久先生の『続補日本印人伝』の欠の幾らかを補うことができる。

三 山田寒山年譜稿

本稿においては、山田寒山の年譜を作製する。旧稿「山田寒山研究②篆刻について（下）」（『修美』第二二巻通巻第四二号、修美社、一九九三年四月）における年譜に加筆・修正したものである。寒山の詳細な伝記・年譜は、後日に期したい。

凡例

- 一、本年譜の対象期間は、山田寒山が出生した年から、埋骨された年までとする。
- 一、出典は煩瑣を避けて最小限に留めた。
- 一、事蹟で年代不明であるが、略ぼ推定されうるものは、「この頃」として、その年の項目として記載した。
- 一、年齢は数え年をもって示した。
- 一、字体は原則として現行の字体を用いたが、原文書の字体を用いた場合がある。

西暦	和暦	干支	年齢	事蹟
一八五六	安政三	丙辰	1	七月三日、愛知県愛知郡長久手村（現在の長久手町）に生まれる。父山田文助、母貞参尼。本名潤子・菊香、不二山人、寒山と号す。齋号は芝仙堂・風火仙窟。
一八六六	慶應四	丙寅	11	三月二十四日、尾張国丹羽郡伝法寺村薬師寺住職大如に就て得度する（得度）。
一八六九	明治二	己巳	14	夏、尾張国愛知郡熱田新宮阪町門通寺住職羽休達閑再会に首先安居（入衆）。
一八七一	明治四	辛未	16	四月二日、明治七年二月二日、美濃国不破郡竹ヶ鼻村本覚寺住職一牛に随侍する（修学）。
一八七四	明治七	甲戌	19	この頃（明治五年？）長崎に赴き、篆刻家小曾根乾堂を訪問し、篆刻を学ぶ。
一八七九	明治十二	己卯	24	この頃、伊勢の印人福井端隠に入門して芙蓉派の篆刻を学ぶ。
一八八一	明治十四	辛巳	26	六月一日、紀伊国南牟婁郡二木烏浦最明寺住職虎嶽の室に入って嗣法（伝法） ⁽⁸⁾⁽⁹⁾ 。 八月二十三日、紀伊国南牟婁郡二木烏浦最明寺へ首先住職（住職）。 九月二十日、東京能本山に就て伝衣（伝衣）。
一八八五	明治十八	乙酉	30	夏、最明寺に於て初会修行。
一八八八	明治二二	戊子	33	五月三十日、最明寺を退職する。その後大阪府摂津国西成郡北野村四百七番屋敷法界寺内に徒弟刀彌鼎と共に閑居する。 十月六日、転居する。大阪府壹号支局へ編入届。 「退職後他管に閑居に付御届」と「御所轄内へ閑居に付御届」を提出する。前者は三重県宗務支局並に曹洞宗務局宛、後者は大阪府第壹号宗務支局並に曹洞宗務局宛。
一八九一	明治二四	辛卯	36	三月、木村竹香、羅漢印並に印譜製作を発願する。 四月十三日、『独占話断易学指南』を発刊する。（鹿田書房発行）

西暦	和暦	年齢	事蹟
一八九五	明治二八 乙未	40	晩秋、東京に移住する。三田芝公園内瓢箪池付近に住し、芝仙堂と名づける。同所にて、篆刻・書画・楽焼を再開する。 この年、日下部鳴鶴の所で呉昌碩の印を見て、その風を慕う。
一八九六	明治二九 丙申	41	伊藤博文主催による滄浪閣落成詩会に参加し、公の知遇を得る。
一八九七	明治三〇 丁酉	42	六月(秋?) 日下部鳴鶴から呉昌碩の話を聞く。また中林梧竹が中国へ遊学することを聞き、中国へ渡り、当時荒廢の極にあった蘇州寒山寺の住職となる。中国に約四ヶ月滞在の後、寒山寺の再建並に夜半鐘の行方探索のため帰国する。
一八九九	明治三二 己亥	44	四月十四・十五・十六日、趙町清水谷皆香園にて陶友会を開く。
一九〇〇	明治三三 庚子	45	春、『滄浪閣印譜』を二部作成する。 六月九日、深川鹿島私邸において園遊会餘興が催される。即席楽焼をする。 銀座一丁目二十一番地に寒山寺の開帳式を営む。巖谷一六、日下部鳴鶴、勝間田蝶夢、鴻雪爪、野口小嶺、竹内桂舟、大岡長峽、尾崎紅葉、巖谷小波、森槐南等来会する。
一九〇一	明治三四 戊申	46	この頃、向島小梅町へ寒山寺を移し、本堂を開く。
一九〇二	明治三五 壬寅	47	大阪・阿波・京都に遊び、京都東山一心院で、高芙蓉の墓、寿藏碑を発見する。
一九〇三	明治三六 癸卯	48	新潟へ百余日にわたり客遊する。 木村竹香の需めに応じ、羅漢鈕大陶印十九顆を刻し、竹香発願の『羅漢印譜』刊行に協力することを約して帰る。 木村竹香『羅漢印譜』(「瓦礫放光」その後「金石結縁」を加える。)を制作する。この頃、下谷へ引越す。 天長佳節、瑞光寺に於て羅漢印の開眼法要式を行う。
一九〇四	明治三七 甲辰	49	八月、木村竹香『羅漢印譜』(「瓦礫放光」一冊本)を補訂刊行する。

西暦	和暦	年齢	事蹟
一九〇五	明治三八 乙巳	50	春、夜半鐘が北陸の某寺にて鑄潰された形跡を発見する。伊藤博文、寒山は、新梵鐘再建の業を発願する。(伊藤公檀中総代、寒山願主) 四月、伊藤博文に新梵鐘の鐘名を請う。 四月、夜半鐘再鑄の主意書を頒布する。
一九〇七	明治四〇 丁未	52	岡本椿所・五世浜邨藏六・河井荃廬・初世中村蘭臺等と丁未印社を創立する。 第二回寒山墨竹百幅会を催す。
一九〇八	明治四一 戊申	53	一月、白山公園偕楽園に於て開齋式を挙行する。 三月、明治印学会規約を頒布。正会員は、五世浜邨藏六・岡本椿所・河井荃廬・初世中村蘭臺・山田寒山である。 四月三日、木村竹香『羅漢印譜』(「瓦礫放光」)「金石結縁」一帙二冊を刊行する。また、行形亭において「羅漢印譜披露並書画煎茶大会」を催す。
一九〇九	明治四二 乙酉	54	十月二十六日、伊藤博文薨去。(六十九歳)
一九一〇	明治四三 庚戌	55	夏、新梵鐘完成する。 十月頃、寒山寺梵鐘の分身、甲乙丙三種の頒布を始める。 十二月二十四日、小林誠義邸において、新梵鐘の撞初式を挙行する。
一九一一	明治四四 辛亥	56	十一月二十二日、芝公園増上寺において、故伊藤公三回忌法要を兼ねて、鐘供養と撞初式を挙行する。 十一月三十日、第二回寒山墨竹百幅会を催す。
一九一二	明治四五 壬子	57	一月、「日本寒山寺建立化縁墨竹十万講主意書(大正元年)」を起案する。
一九一三	大正二 癸丑	58	一月五日、富益齋の著『印章備正』を校訂刊行する。
一九一四	大正三 甲寅	59	六月末、新梵鐘を神戸港から上海蘇州寒山寺へ送る。 寒山屏風百双会を開く。
一九一五	大正四 乙卯	60	三月二日、千葉県海上郡野尻村字長山の地において、日本寒山寺建立地鎮祭を修する。 日本寒山寺建立結縁墨竹十万講のため、新潟各地へ巡遊する。

西暦	和暦	年齢	事蹟
一九一六	大正五 丙辰	61	五月、寒山墨竹画会を開く。
一九一八	大正七 戊午	63	一月十五日、伊豆長岡温泉の遊園地に寒山寺別院を建立する計画を企てる。 十二月二十六日午前七時、下谷区 下谷町一丁目一番地の寓居にて没する。今春来、痔ろうに罹り療養中であつた。
一九一九	大正八 己未		一月十八日、本葬が、浅草松葉町の海禪寺において執行される。導師は宗演老大師、副導師は中原秀岳師が勤める。会葬者は、細川侯、杉子、末松子等を始め文人画家、工芸家、仏教家無慮五〇〇余名に達した。 鎌倉円覚寺大本山佛光国師塔下の骨清窟、紀州最明寺に埋骨。

四 結

本稿で取上げた明治の篆刻家山田寒山は、性来多芸多能で多方面にわたって活躍をした。詩・書・画・篆刻・陶芸すべてを善くした。また豊富な逸話を残し、明治の元勲伊藤博文との交渉は有名である。篆刻は小曽根乾堂、福井端隠等に学んだとされ、芙蓉派の系譜に連なる。刻風は端隠の師小俣螭庵に最も近い。『螭庵印譜』（一帙二冊本）に寒山刻印と類似する印が見られる。また彼の業績の中で、印学の啓蒙は重要である。『印章備正』の校訂刊行において、斯学の発展に寄与したことは評価できる¹⁰⁾。

本稿では、山田寒山の生涯を、旧稿に新知見を加え年譜稿として編むとともに、新資料を提示し、寒山の研究の一端を明らかにした。伝記は今後も更に基礎資料の蒐集・整理を進めるとともに、実証的な考察を加えてゆきたい。本稿執筆に際し、山田家、最明寺（榎本幾穂師）、龍淵寺（伊藤正見師）から多大なるご高配を賜った。心から感謝申し上げます。

【注】

(1) 『寒山新聞』の「鉄筆閑話」に、寒山の言葉として、「高芙蓉の伝燈を継いであるので、純然たる古体家であります、芙蓉派と申しませば、高芙蓉―源惟良―小俣螭庵―福井端隠と伝ひ、私まで、五世であります」とある、による。

(2) 中井敬所の『日本印人伝』は、わが国の印人伝における唯一の専著と言えるもので、好著である。敬所の『印人伝』に関して「日本印人研究―中井敬所の高芙蓉研究―」（『大学書道研究』第一号、全国大学書道学会、二〇〇八年三月）で考察した。わが国における印人伝の最初の編纂は、文化文政の頃、永根伍石により行われた。しかし、現在では佚して伝わらない。『日本印人伝』は、敬所の未完の稿本を、敬所の七回忌である大正四年（一九一五）に、女婿新家孝正の手により上梓されたものである。校正にあたったのは姪の石川文莊と門人の岡村梅軒を中心とする六人である。その一人が寒山である。本書は未定稿であるものの、わが国印人伝の唯一の著述であり、価値あるものといえる。同著は『日本の篆刻』（二玄社）に水田紀久先生による訓読校注がなされている。さらに『続補日本印人伝』の増訂がある。

(3) 山田寒山の生歿は、文献により異同があるが、寒山自筆の『寒山手控え帳』の履歴書と、新聞記事、戸籍謄本等により、これが妥当と思われる。

(4) 新聞資料は昭和五十五年当時、山田正平令夫人喜美子様、ご令嬢梅枝様から紹介され、複写の許可並びに研究発表のご許可を頂いていた。平成十五年度全国大学書道学会徳島大会での研究発表に引き続き、本稿執筆でその責のいくらかを果たしたかと思う。

(5) 柴田光彦先生による「（参考）山田寒山年譜」（『山田寒山と寒山寺鐘をめぐって』、『書道研究』五四号、菅原書房、一九九三年八月）がある。

(6) 木村竹香（一八六八―一九四三）は、近代日本の篆刻家である。名は政平、号は竹香、齋号に酔古堂がある。新潟県新潟市の人。『羅漢印譜』

を編集・刊行したことで知られる。山田正平の実父。

- (7) 前掲の『寒山手控え帳』によると、本貫は、「紀伊国南牟婁郡二木寫里浦二十三番地」とある。これは今後の検討を要する。

- (8) 熊野市文化財調査委員岡本実記「二木島町海福山最明寺について」(昭和五十四年八月吉祥日)

- (9) 筆者は、二〇一二年七月二十日、愛知県日進市の龍淵寺と三重県熊野市二木島町の最明寺を訪問し、山田寒山と正平の関係資料の調査をした。最明寺では同寺に収蔵する印章の調査をした。中に北條卍山(癸卯初冬卍山と側款あり)の刻になるものが見られた。また「月白風清」(竹印、白文)は寒山の刻風に類似する。

龍淵寺では、山田正平の書簡が収蔵されていることが確認された。一九五四年三月二十四日、封書ペン書き、三葉。伊藤靈雲宛。内容は、山田寒山の出自に関するのと、正平自身の近況に関するものである。詳細については、改めて述べる。

- 柿木原くみ「山田寒山―二木島・最明寺時代を中心に―」(『相模国文』第二七号、相模女子大学国文研究会、二〇〇〇年三月)

- 柿木原くみ「北條卍山論―熊野における山田寒山師承―」(『相模国文』第二八号、相模女子大学国文研究会、二〇〇一年三月)

- (10) 「日本印人研究―山田寒山の印学と『印章備正』―」(『熊本大学教育学部紀要』第五九号、熊本大学教育学部、二〇一〇年十二月)

附―明治・大正期新聞資料における山田寒山関連記事見出し一覧稿―

明治・大正期新聞資料における山田寒山関連記事見出し一覧を作成した。本一覧は、「日本印人研究―明治・大正期新聞資料における山田寒山関連記事見出し一覧稿―」(『国語国文研究と教育』第四三号、熊本大学教育学部国文学会、平成十八年二月二十日)を大幅に加筆・修正したものである。

凡例

- 一、見出し一覧の作制は、明治時代に限った(本書に掲載するに当たり、大正時代を追加した)。
- 一、劣化などで不鮮明な見出しや日付は、可能な限り前後の記事から判読した。
- 一、見出しは、内容により加筆・修正した項目がある。
- 一、表記は、新字体と旧字体を併用した。
- 一、配列は原則として年月日順としたが、スクラップブック資料掲載に拠った項目がある。

【補記】

本論文は、既発表論文が査読により修正し掲載されるものである。

新聞見出し	新聞名	発行年月日
皆香園茗集聯句	京華日報	M 33・6・9
廣島家の新婚披露宴	東京日日新聞	M 33・6・10
寒山寺の開帳式	東京朝日新聞	M 33・6・19
よみうり抄 寒山寺開帳	讀賣新聞	M 33・6・19
寒山寺の開帳	国民新聞	M 33・6・19
姑蘇寒山寺	日本	M 33・6・19
すゝみ台寒山寺の副住職が…	二六新報	M 33・6・19
寒山寺	報知新聞	M 33・6・19
銀座の寒山寺	京華日報	M 33・6・19
見るま、聞くま、	やまと新聞	M 33・6・19
寒山寺の開帳	新日本	M 33・6・19
寒山寺の開帳	富士新聞	M 33・6・19
よろづ見聞録 寒山寺の開帳	萬新報	M 33・6・19
寒山寺の開帳式	電光	M 33・6・19
寒山寺の開帳	毎夕新聞	M 33・6・19
寒山寺開帳余聞	毎日新聞	M 33・6・20
東京の寒山寺	東京日日新聞	M 33・6・20
陶友会の庵開き 寒山寺開帳陶友会	人民	M 33・6・20
寒山寺の開帳 陶友会聯句	国民新聞	M 33・6・20
見るま、聞くま、	やまと新聞	M 33・6・20
風流の栞	報知新聞	M 33・6・20
寒山寺開帳	京華日報	M 33・6・20
寒山寺開帳と陶友会聯句	東京朝日新聞	M 33・6・21
寒山寺開帳	日本	M 33
山田寒山姑蘇城外寒山寺…	信濃毎日新聞	M 33・6・21
雜報 銀座街頭の寒山寺	奥羽日日新聞	M 33・6・21
寒山寺	讀賣新聞	M 33・6・24
文芸雜俎 山田寒山氏	太平洋新聞	M 33・6・25
東京銀座裏なる寒山寺にては…	若越新聞	M 33・6・23

新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺の開帳式	東北日報	M 33・6・21
行雲流水 山田寒山新たに庵を…	信濃毎日新聞	M 33・6・22
黄梅雨 寒山寺開帳式の詩俳	東北日報	M 33・6・22
森三溪氏…	讀賣新聞	M 33
森猿男氏…	讀賣新聞	M 33・7・2
寒山寺開帳と陶友会聯句	陶器新報 85	M 33・7・1
俳句	時事新報	M 33・7・3
陶印及陶器扁額傳畎	徳嶋毎日新聞	M 33・6・30
会稽之夢 西村醉処	讀賣新聞	M 33・7・3
会稽之夢	讀賣新聞	M 33・7・4
会稽之夢	讀賣新聞	M 33
会稽之夢	大阪毎日新聞	M 33・7・2
会稽之夢	大阪毎日新聞	M 33・7・3
会稽之夢	大阪毎日新聞	M 33・7・5
会稽之夢	讀賣新聞	M 33・7・7
会稽之夢	讀賣新聞	M 33
会稽之夢	讀賣新聞	M 33・7・6
七月七日皆香園茗集聯句	京華日報	M 33・7・10
よみうり抄 寒山寺の碧巖提唱	讀賣新聞	M 33・7・12
寒山寺の碧巖提唱	中央新聞	M 33・7・12
見き記 銀座1丁目…	憲政新聞	M 33・7・13
清溪茗集聯句十四律	京華日報	M 33・7・10
詩国 野口寧斎撰	新日本	M 33・7・17
詩国 野口寧斎撰	新日本	M 33・7・17
寒山寺の碧巖提唱	通佛	M 33・7・18
聯珠冠句抄	新日本	M 33・7・18
俳句	時事新報	M 33・7・19
俳句	時事新報	M 33・7・25

京橋茶話会	新聞見出し	日本	新聞名	発行年月日
寒山子の鐘ではない陶製		團圓珍聞1268号		
詩国 野口寧斎撰		新日本		
聯珠冠句抄		新日本		
聯珠冠句抄		新日本		
陶製大看板		讀賣新聞		
皆香園茗集聯句 八月四日		國民新聞		
皆香園茗集聯句		京華日報		
鐵筆陶印風火仙塞寒山寺の開帳		團圓珍聞1273号		
俳句		時事新報		
よみうり抄 横浜の陶友会		讀賣新聞		
庚子八月十一日長蛇亭印会席上聯句		人民		
軍事俳句披露(1)		二六新聞		
井上伯の陶器改良談		平等新報		
酣雪亭聯句		人民		
一半兒会		萬朝報		
井上伯の陶器改良談		平等新報		
大橋乙羽氏の園遊会		中央新聞		
かなめ屋の祝宴		中央新聞		
名士小兒に似たり (かなめ屋の祝宴)		讀賣新聞		
懸賞俳句当選披露		M33		
よみうり抄 土俗談話会		M33・10・31		
秋季陶友会		中央新聞		
秋季陶友会		都新聞		
そのをり、秋季陶友会		建国新報		
秋季陶友会		報知新聞		
寒山寺の席上焼		東京朝日新聞		
寒山寺の秋季陶友会		東京日日新聞		
陶友会		人民		

陶友会	新聞見出し	新聞名	発行年月日
秋季陶友会		京華日報	M33・10・31
寒山寺の秋季陶友会		時事新報	M33・10・31
秋季陶友会		東京日日新聞	M33・10・31
千草の花 陶友会		日本	M33・10・31
寒山寺の陶友会		実業新聞	M33・11・1
秋季陶友会		千代田日報	M33・11・1
白河の寒山化縁		中央新聞	M33・11・17
井上伯の陶器改良談		陶器商報	M33・11・1
よみうり抄 寒山曳鋤		讀賣新聞	M33・12・9
寒山寺文墨会		福島新聞	M33・12・9
よみうり抄 白河に於ける寒山寺勸化		讀賣新聞	M33・12・24
白河の寒山寺文墨会		東京朝日新聞	M33・12・25
山田寒山氏招待会		M33	
山田寒山師 茶巡錫		M33	
山田寒山氏帰京		福島新聞	M33・12・26
庚子除夕祭詩龕祭詩席上聯句		國民新聞	M33・1・5
小題大做		二六新報	M33・1・9
うしの春		東京朝日新聞	M33・1・12
陶友会		日本	M33・1・27
寒山寺の新年陶友会		讀賣新聞	M33・1・27
をちこち 陶友会		二六新報	M34・1・27
寒山寺の新年陶友会		中央新聞	M34・1・27
新年陶友会		富士新聞	M34・1・27
新年陶友会小集会		日出国新聞	M34・1・27
新年陶友会		毎日新聞	M34・1・27
陶友会小集		國民新聞	M34・1・27
陶友小集		東京朝日新聞	M34・1・27
新聲 玩球狂仙 陶友会		東京日日新聞	M34・1・29

寒山寺	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺	日本	M 34・1	
寒山寺の移転	東京朝日新聞	M 34・1・28	
寒山寺	毎夕新聞	M 33・2・	
寒山和尚小梅に籠る	実業新聞	M 34・2	
寒山寺の移転	讀賣新聞	M 34・2・1	
向島の寒山寺	民聲	M 34・2・1	
寒山寺の移転	国民新聞	M 34・2・2	
向島の寒山寺	都新聞	M 34・2・3	
墨田堤外寒山寺	東京日日新聞	M 33・2・3	
筆の雫	東京朝日新聞	M 34・2・17	
濱街花邸…	国民新聞	M 34・2・9	
山田寒山寺和尚を…	信濃毎日新聞	M 34	
百花園に梅を見る 眠石主人	櫻新聞	M 34	
東上日記抄	信濃毎日新聞	M 34・3・17	
百花園に梅を見る 眠石主人	下野日日新聞	M 34・3・19	
東上日記抄 露香	信濃毎日新聞	M 34・3・19	
集会 談泊会	日本	M 34・3・24	
東上日記抄	信濃毎日新聞	M 34・3	
寒山寺の春期陶友会	中央新聞	M 34・4・4	
春期陶友会	東京朝日新聞	M 34・4・5	
例の山田寒山氏は…	富士新聞	M 34・4・5	
陶友会	国民新聞	M 34・4・5	
陶友会	毎夕新聞	M 34・4・5	
よろづ見聞録 春期陶友会	萬朝報	M 34・4・4	
春期陶友会	社会新報	M 34・4・5	
春期陶友会	東京日日新聞	M 34・4・6	
春季陶友会	人民	M 34・4・7	
三圍祠畔の陶友会	讀賣新聞	M 34・4・8	
陶友会の楽焼	日出国新聞	M 34・4・8	

春季陶友会	新聞見出し	新聞名	発行年月日
春季陶友会	都新聞	M 34・4	
春期陶友会	日本	M 34・4・9	
新聲 凝風雅 飲仙…	東京日日新聞	M 34・4・9	
三圍祠畔の陶友会	讀賣新聞	M 34・4・9	
寒山楽焼の釘彫	東京朝日新聞	M 34・4・22	
永井禾原詩 寒山翁…	東京朝日新聞	M 34・4・22	
風の向島	讀賣新聞	M 34・4・13	
寒山寺の移転	東京朝日新聞	M 34・1・28	
陶友会	国民新聞	M 34・4・5	
文苑 寄題寒山寺依寧齋君韻	太平洋	M 34・6・24	
山田寒山の行脚	東京朝日新聞	M 34・9・8	
山田寒山翁	信濃毎日新聞	M 34・9・12	
小庵雜記 山田寒山和尚と対す	信濃毎日新聞	M 34・9・13	
山田寒山翁の来高	高田新聞	M 34・9・15	
日本青年会 再び大会について	日本	M 34・9・14	
山田寒山翁	信濃毎日新聞	M 34・9・14	
山田寒山翁	高田新聞	M 34・9・19	
山田寒山翁	高田新聞	M 34・9・17	
山田寒山翁	新潟日報	M 34・9・18	
陶窯家山田寒山	東北日報	M 34・9・18	
鎌倉の左佛菴	東北日報	M 34・9・22	
山田寒山	東北日報	M 34・9・24	
鉄筆家山田寒山氏来港	新潟日報	M 34・9・24	
新潟通信猩々亭主人	山梨民報	M 34・9・26	
天籟詩屋主人批 小澤幸民ぬし…	東北日報	M 34・9・28	
山田寒山翁	信濃毎日新聞	M 34・9・29	
鉄筆家山田寒山氏来港	新潟日報	M 34・9・22	
文苑 諏訪に入りて阿心庵に草鞋を解…	信濃毎日新聞	M 34・10・12	
山田寒山翁	信濃毎日新聞	M 34・10・1	

新聞見出し	新聞名	発行年月日
山田寒山の帰京	中央新聞	M 34・10・31
雅会	信濃日報	M 34・10・22
秋季陶友会	團團珍聞	M 34・11・16
陶友会	都新聞	M 34・11・4
秋季陶友会	讀賣新聞	M 34・11・14
陶遊会	讀賣新聞	M 34・10・14
今日の樂事：	日本	M 34・10・17
よろづ見聞録 陶友会	萬朝報	M 34・11・15
秋季陶友会	毎夕新聞	M 34・11・15
秋季陶友会	中央新聞	M 34・11・15
山田寒山の秋季陶友会	日本	M 34・11・16
美術雑誌 陶友会	報知新聞	M 34・11・16
をちこち 二六山人へ篆刻寄贈	二六新報	M 34・11・17
秋季陶友会	讀賣新聞	M 34・11・14
秋季陶友会	実業新聞	M 34・11・19
秋季陶友会	実業新聞	M 34・11・15
向島の陶友会	東京朝日新聞	M 34・11・14
文苑	信濃毎日新聞	M 34
寒山鉄筆	高田新聞	M 35・2・7
4月8日誕生会香語		
愛宕山の陶友会	中央新聞	M 35・2・15
四月八日誕生会香語 寒山山田潤		
陶器学会	毎日新聞	M 35・4・5
静岡居士大練忘香語	東北	M 35・4・10
毎日譚海 山田寒山 (一)	毎日新聞	M 35・3・2
毎日譚海 山田寒山 (二)	毎日新聞	M 35・3・3
毎日譚海 山田寒山 (三)	毎日新聞	M 35・3・4
毎日譚海 山田寒山 (四)	毎日新聞	M 35・3・5

新聞見出し	新聞名	発行年月日
夫婦持 同行四人	宇都宮下野日日新聞	M 35・3・15
文壇雜俎 宙外		
よみうり抄 秋季陶友会	讀賣新聞	M 35
陶友会	萬朝報	M 35・4・3
陶友会	時事新報	M 35・4・3
をちこち 花下の陶友会	二六新報	M 35・4・3
寒山寺の春期陶友会	東京日日新聞	M 35・4・3
寒山寺の陶友会	東京朝日新聞	M 35・4・3
寒山寺の春期陶友会	中央新聞	M 35・4・3
日本聯合医学会	時事新報	M 35・4・4
三圓の陶友会	実業新聞	M 35・4・6
中外俱樂部 花の命	中外商業新報	M 35・4・3
日本聯合医学会	中外商業新報	M 35・4・5
陶器学会の春季大会	中央新聞	M 35・4・29
花の波	毎日新聞	M 35・4・8
陶器の染付 (一) (陶器学会に於ける今泉雄作氏講話)	国民新聞	M 35・5・9
陶器の染付 (二) (陶器学会に於ける今泉雄作氏講話)	国民新聞	M 35・5・10
杏林餘影	日本医事週報	M 35・1・1
皆香園茗集聯句	京華日報	
香道の話 (三二) 香木の事	讀賣新聞	M 35・6・27
香道の話 (三四) 香木の事《続》	讀賣新聞	M 35・7・13
香道の話 (三五) 香木の事《続》	讀賣新聞	M 35・7・16
香道の話 (三六) 香木の事《続》	讀賣新聞	M 35・7・18
香道の話 (三七) 香木の事《続》	讀賣新聞	M 35・7・22
香道の話 (二九) 香枕の事	讀賣新聞	M 35・6・17
香道の話 (三一) 香を聞くといふ詞の事	讀賣新聞	M 35・6・26
香道の話 (三七) 香木の事《続》	讀賣新聞	M 35・6・27
香道の話 (二一)	讀賣新聞	M 35・3・25
香道の話 (二二)	讀賣新聞	M 35・3・26

新聞見出し	新聞名	発行年月日
香道の話(三) 供香の事	読賣新聞	M 35・3・27
香道の話(四) 空香の事	読賣新聞	M 35・3・28
香道の話(五) 空香故実の事	読賣新聞	M 35・3・29
香道の話(六) 衣香の事	読賣新聞	M 35・3・30
香道の話(七) 衣香の事	読賣新聞	M 35・3・31
香道の話(八) 配香の事	読賣新聞	M 35
香道の話(九) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十一) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十二) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十三) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十四) 配香の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(十五) 香道諸流の事	読賣新聞	M 35
香道の話(十六) 香道諸流の事(補遺)	読賣新聞	M 35
香道の話(十七) 名香の事	読賣新聞	M 35
香道の話(十九) 組香道具の事	読賣新聞	M 35
香道の話(二十) 組香道具の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(二十一) 組香道具の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(二十二) 組香道具の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(二十三) 組香道具の事《統》	読賣新聞	M 35
香道の話(二十四) 灰押方の事	読賣新聞	M 35
香道の話(二十六) 香拵へ寸法の事	読賣新聞	M 35
山田寒山翁の開店	都新聞	M 40・3・17
寒山寺の記念品	東京日日新聞	M 40・3・17
寒山寺の博覧会土産	東京毎日新聞	M 40・3・17
よもやま 博覧会記念土産品	萬朝報	M 40・3・18
寒山翁と博覧会	二六新聞	M 40・3・18
寒山寺の趣向	日本新聞	M 40・3・18
博覧会記念の軼形小箱	東京朝日新聞	M 40・3・18

新聞見出し	新聞名	発行年月日
博覧会記念土産	時事新聞	M 40・3・18
山田寒山和尚の新商法	中央新聞	M 40・3・18
博覧会記念の軼形小箱	報知新聞	M 40・3・19
博覧会の記念土産	やまと新聞	M 40・3・18
博覧会記念の小箱	国民新聞	M 40・3・21
無声無煙の祝砲	二六新聞	M 40・3・23
三橋の六阿弥陀常樂院の：	都新聞	M 40・3・28
鉄筆 山田寒山篆 柳緑花紅	国民新聞	M 40・4・7
寒山寺の鐘 大狂生	国民新聞	M 40・4・8
寒山詩 後塵生	国民新聞	M 40・4・31
随鷗吟社第三次大会聯句	国民新聞	M 40・4・13
鉄筆 阿波廣山古山 雲無心 寒山老納云：	国民新聞	M 40・4・14
漢詩壇 随鷗吟社第三次大会聯句	讀賣新聞	M 40・4・15
随鷗吟社第三次大会聯句	萬朝報	M 40・4・16
閑題休話 鉄筆界の奇人：	国民新聞	M 40
山田寒山和尚ハ：	萬朝報	M 40・4・21
寒山一夕話(一)	北越日報	M 40・4・19
山田寒山氏 一昨日：	北越日報	M 40・4・20
寒山一夕話(二)	北越日報	M 40・4・21
鉄筆 寒山田潤作 吉福仿漢印 寒山自注：	北越日報	M 40・4・21
寒山一夕話(三)	北越日報	M 40・4・23
寒山一夕話(五)	北越日報	M 40・4・25
釋釋松樓の一夕 木舌	北越日報	M 40・4・27
鉄琴遺韻(二) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・4・28
鉄琴遺韻(三) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・4・29
鉄琴遺韻(四) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・4・30
鉄琴遺韻(五) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・4・31
鉄琴遺韻(六) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・5・1
鉄琴遺韻(七) 山田寒山氏談	北越日報	M 40・5・2

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
鉄琴遺韻（八）	山田寒山氏談		M 40・5・3
鉄琴遺韻（九）	山田寒山氏談		M 40・5・4
鉄筆紀伊北條己山一山一水寒山老納云：	国民新聞		M 40・5・5
文苑 余曾游清国：			
津軽家の結婚披露	東京日日新聞		M 40・5・5
伊豆及伊東（一）	国民新聞		M 40・5・6
伊豆及伊東（二）	国民新聞		M 40・5・8
現今書家篆刻家歌人番付	国民新聞		M 40・5・12
文苑随鵬吟社第二十九次例集聯句	東京日日新聞		M 40・5・20
閑題休話 又少し定規に：	国民新聞		M 40
姑蘇城外寒山寺の：			
百人一話（一記者）	山田寒山氏の篆刻流派談（上）	東京日日新聞	M 40
百人一話（二記者）	山田寒山氏の篆刻流派談（中）	東京日日新聞	M 40・10・25
百人一話（三記者）	山田寒山氏の篆刻流派談（下）	東京日日新聞	M 40
寒山寺鐘再鑄	やまと新聞		M 43・3・19
寒山寺梵鐘鑄造	東京日日新聞		M 43・3・20
楓橋夜泊詩の梵鐘	東京朝日新聞		M 43・3・20
寒山寺の夜半鐘	国民新聞		M 43・3・21
寒山寺の鐘	時事新聞		M 43・3・21
寒山寺の夜半鐘	国民新聞		M 43・3・21
寒山寺鑄鐘計画	大阪朝日新聞		M 43・3・22
寒山寺の夜半鐘	長野新聞		M 43・3・21
寒山寺夜半鐘再建	中外新聞		M 43・3・24
寒山寺の鐘	日本新聞		M 43・3・24
清国蘇州の寒山寺	山形新聞		M 43・3・23
寒山寺夜半鐘の再建	峡中新報		M 43・3・24
寒山寺の夜半鐘	信濃毎日新聞		M 43・3・24
寒山寺の梵鐘	秋田魁新聞		M 43・3・24
再び寒山寺の鐘に就て	長野新聞		M 43・3・24

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺の夜半鐘		報知新聞	M 43・3・25
寒山寺夜半鐘の再建		峡中新聞	M 43・3・28
寒山寺梵鐘再鑄		北越新報	M 43・3・27
姑蘇城外の鐘		中央新聞	M 43・3・27
姑蘇寒山寺		二六新聞	M 43・3・27
夜半鐘分身の頒布		東京朝日新聞	M 43・3・28
寒山寺の夜半鐘		長野新報	M 43・3・28
夜半鐘の再鑄		讀賣新聞	M 43・3・27
又聞き		東京毎日新聞	M 43・3・29
寒山寺の分身鐘		都新聞	M 43・3・30
寒山寺の夜半鐘		新潟新聞	M 43・3・23
寒山寺夜半鐘の再建		河北新聞	
故伊藤公の書		北越新報	M 43・3・29
紙のしづく 寒山寺鐘再鑄のこと：		北越新報	M 43・3・29
寒山寺梵鐘の再建		福岡民友新聞	M 43・3・25
寒山寺の鐘再建		大阪朝日新聞	M 43・3・30
山田寒山氏は：		讀賣新聞	M 43・3・31
寒山寺鐘の再鑄		松陽新聞	M 43・3・23
寒山寺夜半鐘の再建「千古の風流」		東京二六新報	M 43・3・31
寒山寺の鐘		北越新聞	M 43・3・25
寒山寺の夜半鐘		鹿児島新聞	M 43・3・26
寒山寺梵鐘再建		濱松新聞	M 43・4・1
寒山寺梵鐘の分身		日本新聞	M 43・4・2
寒山寺夜半鐘の再建 千古の風流		三重毎日新聞	M 43・3・31
寒山寺梵鐘再建		濱松新聞	M 43・4・1
いろいろ草(4)姑蘇寒山寺：		福島民報新聞	M 43・4・1
寒山寺夜半鐘の再建		弘前新聞	M 43・4・2
寒山化縁		福島新聞	M 43・4・1
姑蘇城外の鐘		海南新聞	M 43・3・31

寒山寺鐘の建立	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺梵鐘の建造	上州新報	横浜貿易新聞	M 43・4・5
寒山寺の鐘	上野日日新聞	上州新報	M 43・4・1
寒山梵鐘分身の配附	能代新聞	上野日日新聞	M 43・4・7
千古の風流 寒山寺夜半鐘の再建	讃岐日日新聞	能代新聞	M 43・4・4
故伊藤公と寒山化縁	毎日新聞	讃岐日日新聞	M 43・4・2
梵鐘再建の事を…		毎日新聞	M 43・4・8
寒山寺夜半鐘	信濃日報		M 43・4
いろいろ草(4)蘇堂	福嶋民報	信濃日報	M 43・4・1
寒山寺の梵鐘	小樽新聞	福嶋民報	M 43・4・2
陶友会は…	萬朝新聞	小樽新聞	M 43・4・9
寒山寺鐘に就て	教海新聞	萬朝新聞	M 43・4・5
寒山寺梵鐘の再建	南勢新報社	教海新聞	M 43・4・6
寒山寺の夜半鐘	佛都新報社	南勢新報社	M 43・4・11
寒山寺の夜半鐘	扶桑新聞	佛都新報社	M 43・4・6
寒山寺梵鐘再建	徳嶋日日新聞	扶桑新聞	M 43・4・9
寒山寺山の夜半鐘	伊勢新聞	徳嶋日日新聞	M 43・4・8
清国蘇州寒山寺の梵鐘再建	北海タイムス	伊勢新聞	M 43・4・6
寒山寺の梵鐘	馬関毎日新聞	北海タイムス	M 43・4・13
風聞録 上野公園に…	国民新聞	馬関毎日新聞	M 43・4・16
蘇州寒山寺再興	京城日報	国民新聞	M 43・4・8
滞京の観光団 電信や電話に驚倒す	国民新聞	京城日報	M 43・4・18
寒山夜半鐘	新□時事	国民新聞	M 43・4・20
満州観光団の来観	東京朝日新聞	新□時事	M 43・4・20
山田寒山翁を訪ふ 在京一記者	海南新聞	東京朝日新聞	M 43・4・10
這入つて行く通路は…	報国新聞	海南新聞	M 43・4・8
小野湖山翁逝く		報国新聞	M 43・4・13
寒山寺梵鐘再建	大連満州日日新聞		M 43・4・28
寒山寺夜半鐘	信濃佐久新聞	大連満州日日新聞	M 43・4・21

寒山の陶友会	新聞見出し	新聞名	発行年月日
応接室 山田寒山師		中外商業新報	M 43・4・22
一昨日の観光団		東京毎日新聞	M 43・4・22
奉天観光団の一行		東京朝日新聞	M 43・4・26
美人軍の活動 同文会の満州観光団		東京日日新聞	M 43・4・26
当選鉄筆 丁美印社選 村田蔚堂 時中		国民新聞	M 43・4・26
ハガキだより 此間質問が…		国民新聞	M 43・4・27
寒山作「藤公の鐘」		国民新聞	M 43・4・12
風聞録 正宗徳三郎氏は…		中外商業新報	M 43・5・12
東宮上野行啓		国民新聞	M 43・5・19
東宮上野行啓		二六新聞	M 43・5・19
東宮上野行啓 美術工芸品の台覧		やまと新聞	M 43・5・19
東宮殿下の展覧会行啓		中央新聞	M 43・5・19
青葉の上野 東宮行啓と展覧会		国民新聞	M 43・5・19
東宮上野行啓		時事新報	M 43・5・19
東宮上野行啓		東京日日新聞	M 43・5・19
宮廷録事 東宮殿下上野行啓		讀賣新聞	M 43・5・19
新緑の上野ヶ丘（東宮の美術展覧会行啓）		報知新聞	M 43・5・19
山田寒山氏の楽焼場にては…		讀賣新聞	M 43・5・22
浅草仲見世のひさご庵		東京日日新聞	M 43・5・2
寒山寺梵鐘再建		樺太日日新聞	M 43・5・24
細川男の壽筵		東京朝日新聞	M 43・5・30
細川潤次郎の壽筵		毎日電報	M 43・5・30
細川潤次郎男の壽筵		中外商業新報	M 43・5・30
細川男爵の壽筵		東京日日新聞	M 43・5・30
はなし草 寒山寺梵鐘の…		やまと新聞	M 43・6・20
美術界風聞録 二四日中川で…		報知新聞	M 43・7・6
美術界風聞録 文部省美術展覧会…		報知新聞	M 43・6・8
日本に寒山寺			

寒山寺の夜半鐘の再建	新聞見出し	佛都新報	M 43・8・8
感化院より 如意庵主人	新聞名		発行年月日
寒山寺の鐘		萬朝報	M 43・10・1
寒山寺梵鐘分身		東京朝日新聞	M 43・10・1
寒山寺梵鐘の分身		国民新聞	M 43・10・1
寒山寺の鐘		萬朝新聞	M 43・10・1
寒山寺梵鐘分身		朝日新聞	M 43・10・1
寒山寺の梵鐘		報知新聞	
寒山寺梵鐘成る		やまと新聞	M 43・10・1
寒山寺夜半鐘成る		二六新聞	M 43・10・2
寒山寺の分鍾		毎日電報	M 43・10・2
姑蘇寒山寺と梵鐘		讀賣新聞	M 43・10・2
寒山寺梵鐘成る		中外新聞	M 43・10・2
寒山寺梵鐘の分身		横浜貿易新聞	M 43・10・2
寒山寺の鐘		都新聞	M 43・10・3
寒山寺梵鐘成る		中外商業新報	M 43・10・2
山田寒山子苦心の…		東京日日新聞	M 43・10・2
寒山寺の梵鐘		報知新聞	M 43・10・2
寒山寺の分鍾		毎日電報	M 43・10・2
寒山寺の鐘		都新聞	M 43・10・3
夜半鐘の分身鑄造		東京日日新聞	M 43・10・2
寒山寺梵鐘の分身		国民新聞	M 43・10・2
姑蘇寒山寺と梵鐘		讀賣新聞	M 43・10・2
寒山寺梵鐘成る		やまと新聞	M 43・10・2
寒山寺の鐘		中央新聞	M 43・10・4
寒山寺住職山田寒山和尚が…		長野新聞	M 43・10・5
寒山寺の分鍾		長野新聞	M 43・10・5
寒山寺の鐘の鑄造		大阪朝日新聞	M 43・10・4
寒山寺鐘分身頒布		信濃日報	M 43・10・3

寒山寺の鐘	新聞見出し	讀岐日日新聞	M 43・10・4
寒山寺名鐘分身三千個	新聞名		発行年月日
寒山寺の梵鐘		京都新聞	M 43・10・2
寒山寺梵鐘分身		北国新聞	M 43・10・5
寒山寺の梵鐘		名古屋新聞	M 43・10・5
寒山寺梵鐘の分身		扶桑新聞	M 43・10・3
寒山寺梵鐘成る		濱松新聞	M 43・10・6
寒山寺の鐘		神戸又新日報	M 43・10・4
寒山寺梵鐘の分身		新総房	M 43・10・4
寒山寺の梵鐘		京都新聞	M 43・10・4
寒山寺の梵鐘		佐久新聞	M 43・10
美術界 寒山寺梵鐘の分身		時事新聞	M 43・10・9
蘇州寒山寺の梵鐘		九州日日新聞	M 43・10・6
寒山寺夜半鐘の分身		松江市山陰新聞	M 43・10・6
寒山寺梵鐘分身の配付		河北新報	M 43・10・6
山田寒山翁は…		東奥日報	M 43・10・6
美術界風聞録 同好印会は…			M 43・10
寒山寺梵鐘撞初式延期		夕刊やま登新聞	M 43・10・22
よもやま 梵鐘成る		萬朝報	M 43・10・22
寒山寺撞初式延期		毎電新聞	M 43・10・22
寒山寺の鐘撞初式		都新聞	M 43・10・23
寒山寺の夜半鐘		佛都新報	M 43・10・20
寒山寺大梵鐘		日本新聞	M 43・10・23
寒山寺の鐘撞初式		都新聞	M 43・10・23
梵鐘撞初式延期		中央新聞	M 43・10・23
寒山寺鐘の聲		横浜貿易新聞	M 43・10・26
夜半鐘撞初式延期		中外商業新報	M 43・10・26
寒山寺梵鐘撞初め延期		東京二六新報	M 43・10・26
美術界消息 此間夜半鐘…		萬朝報	M 43・10・26
うめ艸 山田華山が…		岩手日報	M 43・10・26

美術界風聞録	新聞見出し	新聞名	発行年月日
美術界風聞録	報知新聞	M 43・10・27	
美術界風聞録	報知新聞	M 43・10・28	
過般本欄に記報の寒山寺梵鐘は：	東奥日報	M 43・10・29	
大供養は来春：	秋田魁新聞	M 43・10・25	
大吉おほがね 下谷寒山寺から：			
山田寒山の計画	やまと新聞	M 43・12・22	
寒山寺建立	中央新聞	M 43・12・1	
寒山寺梵鐘鑄造	因伯時報	M 43・11・28	
寒山寺梵鐘の竣工	佛都新報	M 43・12・1	
寒山寺梵鐘の撞初	毎日電報	M 43・12・21	
よみうり抄 山田寒山氏の梵鐘竣工	讀賣新聞	M 43・12・22	
寒山寺梵鐘撞初	時事新報	M 43・12・22	
寒山寺梵鐘成る	日本	M 43・12・22	
美術界寒山寺の梵鐘成る	東京朝日新聞	M 43・12・23	
寒山寺梵鐘成る	河北新報	M 43・12・22	
風聞録 山田寒山氏が：	国民新聞	M 43・12・23	
美術界風聞録	報知新聞	M 43・12	
寒山寺の梵鐘 寒山寺梵鐘成る	日本	M 43・12・28	
清国寒山寺に懸くべき新鑄の大梵鐘と山田寒山師	東京二六新報	M 43・12・26	
寒山寺鐘の撞初		M 43・12	
寒山寺梵鐘撞初式	日本	M 43・12・27	
美術界風聞録 例の姑蘇寒山寺の：			
寒山寺の鐘供養	東京朝日新聞	M 43・12・27	
寒山寺梵鐘撞初式	日本新聞	M 43・12・26	
寒山寺の鐘供養	東京朝日新聞	M 43・12・26	
夜半の鐘撞初式	東京日日新聞	M 43・12・25	
寒山寺鐘供養	東京二六新報	M 43・12・26	
美術界寒山寺の鐘成る	中央新聞	M 43・12・26	
寒山寺梵鐘撞初	やまと新聞	M 43・12・26	

本日撞初をなす清国蘇州寒山寺の新梵鐘	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺梵鐘と寒山和尚		横浜貿易新報	M 43・12・24
大梵鐘と山田寒山師		中外商業新報	M 43・12・26
賀章に見はれたる詩(四) 古冀農長 山田寒山和尚		九州日日新聞	M 43・12・29
新年のことばき 下谷寒山寺にて 山田寒山		北越新聞	M 43・1・11
寒山寺梵鐘		柏崎日報	M 43・1・11
寒山寺梵鐘分身配付		東北公論	M 44・1・8
隣の噂 山田寒山は		秋田時事	M 44・1・12
寒山寺梵鐘の分身		讀賣新聞	M 44・1・18
寒山寺鐘の聲		毎夕新聞	M 44・1・17
寒山和尚墨竹揮毫		巖手日報	M 44・1・18
見聞雜記、奥原晴翠山水三百幅、寒山師墨竹揮毫		巖手日報	M 44・1・24
姑蘇城外寒山寺		山形新聞	M 44・1・24
美術界消息 山田寒山和尚は：		山形日報	M 44・1・24
寒山寺の新景		萬朝報	M 44・2・4
寒山、晴翠の揮毫		国民新聞	M 44・2・7
寒山和尚の揮毫		報知新聞	M 44・2・8
創立三十年記念揮毫 清国蘇州寒山寺住職山田寒山師筆		国民新聞	M 44・2・9
山田寒山和尚來峽		山陰新聞	M 44・2・7
山田寒山師の來往		甲斐新聞	M 44・2・18
寒山寺和尚來る		山梨民報	M 44・2・18
耳と目			M 44
寒山寺夜半鐘小学校の報鐘に用ゐたい			
此程入峽した山田寒山師は：			
筆の志づく		中央新聞	M 44・2・18
古今印叢 神武明達 椿所岡本義邦刻			
古今印叢 關中紅侯印 荃蘆			
古今印叢 福祿自在 蘭台			
寒山寺梵鐘の再建		京都新聞	M 44・2・21

夜半鐘分身好評	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺鐘の学校寄附	山梨毎日新聞	M44・2・25	
古今印叢 黄秋齋刻 蘇香生	国民新聞	M44・2・28	
寒山寺の鐘来る	朝日新聞名古屋附録	M44・3・10	
千古風流寒山寺の鐘 與太郎	信濃新聞	M44・3・20	
葬列十数町会葬者二千余名 栗原本社理事の葬儀	国民新聞	M44・3・31	
弔詞 清浦奎吾	国民新聞	M44・4・1	
寒山寺の鐘聲	満州日日新聞	M44・6・3	
寒山寺の梵鐘	遼東新報	M44・6・3	
鐘の聲から 彌二郎	信濃新聞	M44・4・3	
鐘の聲から	信濃新聞	M44・4・4	
古今印叢 桂末谷刻 従吾所好 蘇香	国民新聞	M44・4・16	
中村不折画	信濃新聞	M44・4・5	
中村不折画伯篤志揮毫寒山拾得三十三張分配	巖手日報	M44・4・26	
姑蘇寒山寺鐘銘	国民新聞	M44・4・16	
美術界風聞録	横浜貿易新聞	M44・4・26	
有名なる清国寒山寺：墨竹画	朝日名古屋附録	M44・4・15	
当世髯比べ（其25）	やまと新聞	M44・5・4	
古今印叢 趙仲穆刻 醫俗（椿所）	時事新報	M44・4・6	
随鵬日録（一）蕉雨生 四月二十四日香港より賀茂丸に於て			
創立三十年記念揮毫 清国蘇州寒山寺住職 山田寒山筆			
古今印叢「壳神祝印」（寒山）			
寒山寺梵鐘竣工	国民新聞		
色紙百種（其3）山田寒山筆	新愛知新聞		
寒山和尚墨竹画会	新愛知新聞		
絵画展覧会	遼東新報	M44・5・19	
絵画展覧会―空前の規模―	遼東新報	M44・5・20	
名流揮毫展覧会	満州日日新聞	M44・5・19	
寒山墨竹画会	扶桑新聞	M44・6・2	

来往消息 山田寒山氏	新聞見出し	新聞名	発行年月日
美術界風聞録	報知新聞	M44・5・28	
美術界風聞録	報知新聞	M44・5・28	
寒山寺の鐘聲	報知新聞	M44・6・4	
寒山寺の鐘	満州日日新聞	M44・6・3	
寒山寺の梵鐘	遼東新報	M44・6・3	
縦横無尽 無我夢中生 寒山寺の梵鐘と銘・扇面書画	新愛知新聞	M44・6・6	
寒山和尚の懷舊談（一）	新愛知新聞	M44・6・6	
寒山和尚の懷舊談（二）	新愛知新聞	M44・6・7	
寒山和尚の懷舊談（三）	新愛知新聞	M44・6・8	
覺王山裡の画筵	新愛知新聞	M44・6・7	
山形公誕辰祝賀	朝刊やまと新聞	M44・6・15	
寒山和尚の懷舊談（五）	新愛知新聞	M44・6・11	
色紙百種（其十三）山田寒山筆	新愛知新聞	M44・6・12	
寒山和尚の懷舊談（六）	新愛知新聞	M44・6・12	
一日一人 寒山山田潤氏文曰不折	萬朝報	M44・6・16	
山田寒山、奥田抱生氏合作	新愛知新聞	M44・6・16	
碧巖会	国民新聞	M44・6・19	
古今印叢 貫名海屋 清玩翰墨（寒山）	国民新聞	M44・6・25	
古今印叢 奚鐵生 不翁（椿所）	国民新聞	M44・7・16	
美術界便り 寒山墨竹百幅会	横浜貿易新聞	M44・7・15	
美術界風聞録	報知新聞	M44・7・20	
寒山和尚墨竹会	国民新聞	M44・7・20	
古今印叢 蘭台作 亨寿星	国民新聞	M44・7・16	
古今印叢 金冬心刻 五日一水十日一石（奎盧）	国民新聞	M44・7・23	
古今印叢 寒山 陶印 創意仙品 辛亥秋日作	国民新聞	M44・10・20	
寒山寺梵鐘撞初・蘇州寒山寺の鐘・寒山寺梵鐘供養	時事・万朝新聞	M44・10・20	
寒山寺鐘撞初式	扶桑新聞	M44	
蘇州寒山寺の鐘	時事新報	M44・7・21	
美術界 寒山寺の梵鐘	やまと新聞	M44・10・21	

寒山寺梵鐘供養	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺梵鐘供養会	東京日々新聞	M44・10・19	
寒山寺梵鐘供養と撞初式	萬朝報	M44・10・23	
寒山寺の鐘供養 末松夫人の撞初め	国民新聞	M44・10・23	
寒山寺鐘の撞初め	讀賣新聞	M44・10・23	
寒山寺梵鐘撞初式	やまと新聞	M44・10・23	
寒山寺梵鐘撞初式	時事新報	M44・10・23	
寒山寺梵鐘供養	報知新聞	M44・10・22	
鐘供養	東京二六新報	M44・10・23	
寒山寺梵鐘供養	東京朝日新聞	M44・10・23	
寒山寺梵鐘撞初式	東京日々新聞	M44・	
寒山寺梵鐘撞初式	中央新聞	M44・10・23	
寒山寺梵鐘	新総房	M40・10・19	
梵鐘供養並撞初式	九州毎日新聞	M40・10・21	
寒山寺梵鐘撞初式	上毛新聞	M40・10・19	
近事片々 寒山寺の鐘工終る…	東京日日新聞	M44・10・24	
寒山寺梵鐘撞初式	名古屋新聞	M40・10・20	
寒山寺の夜半の鐘	中外日報	M40・10・	
夜半鐘の撞初	弘前新聞	M40・10・20	
蘇州寒山寺梵鐘供養	讃岐日日新聞	M40・10・20	
寒山梵鐘の撞初	中外日報	M40・10・20	
寒山寺の鐘（増上寺にて撞初め）	都新聞	M44・10・23	
寒山寺梵鐘撞初	東海新聞	M40・10・22	
寒山寺梵鐘撞初式			
寒山寺梵鐘の落成	門司新報	M40・10・20	
梵鐘供養並撞初式	岩手日報	M40・10・19	
梵鐘撞初式	山梨民報	M40・10・19	
寒山寺の鐘供養 末松夫人の撞初め	新潟新聞	M40・10・25	
寒山寺梵鐘供養	土陽新聞	M40・10・22	
寒山寺梵鐘供養	中外日報	M40・10・25	

寒山寺の鐘供養	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山寺の鐘供養	二豊新聞	M40・10・28	
寒山寺の鐘供養	門司新報	M40・10・26	
寒山寺の鐘供養	佛都新報	M44・11・1	
寒山留別雅会	中外日報	M44・11・21	
寒山留別雅会	報知新聞	M44・11・21	
寒山留別雅会	日々新聞	M44・11・21	
寒山留別雅会	やまと新聞	M44・11・22	
寒山和尚の留別会	やまと新聞	M44・11・27	
寒山留別雅会	中外日報	M44・11・28	
山田寒山師の帰山	中外日報	M44・12・25	
素人画会	国民新聞	M44・12・14	
展覽会一巡（上）健筆会展覧会	萬朝報	M44・10・12	
山田寒山の山水	岩手日報	M40・12・20	
寒山寺梵鐘分身	中外新聞	10・7	
よみうり抄 寒山墨竹百幅会	讀賣新聞	M40・10・11	
下谷下谷町 寒山寺の…	万朝新聞	M40・10・11	
寒山墨竹百幅画会	万朝新聞	M40・10・11	
寒山墨竹百幅会	やまと新聞	M40・10・10	
寒山墨竹百幅会	国民新聞	M40	
寒山寺百幅会	下野新聞	M40・10・12	
寒山墨竹百幅会	常総新聞	M40・10・12	
寒山墨竹百幅画会	下野日日新聞	M40・10・12	
寒山墨竹百幅会	新愛知新聞	M40	
寒山墨竹百幅会	両雨実業新聞	M40	
第二回寒山墨竹百幅会	仙台日日新聞	M40	
美術界だより 寒山墨竹百幅会	横浜貿易新聞	M40	
寒山墨竹百幅会	名古屋新聞	M40	
寒山墨竹百幅会	信濃民報	M40	
寒山墨竹百幅会	信濃毎日新聞	M40	

寒山の墨竹百幅	新聞見出し		新聞名	発行年月日
寒山墨竹百画会		函館新聞		M 40・10・14
寒山墨竹百幅会		国民長野新聞		M 40・10・14
第二回寒山墨竹百幅会		北羽新聞		M 40・10・16
いろいろ寒山墨竹百幅会		羽後新聞		M 40・10・16
寒山墨竹百幅会		報知新聞		M 40・10・16
寒山墨竹画会		信濃日報		M 40・10・12
寒山墨竹百幅会（東京特信）		中央新聞		T 1・10・22
天下の墨客一同に会す		報知新聞		M 44・12・5
山田寒山墨竹 辛亥十月		岩手公論		M 44・11・1
鶏助		山梨毎日新聞		2・15
山田寒山和尚		峡中日報		2・15
耳と目 寒山和尚が：		峡中日報		2・17
古今印叢 鵜寺倉印（寒山）		国民新聞		3・16
山田寒山師筆		巖手日報		1・1
古今印叢 池大雅 満身華影				
古今印叢 高芙蓉 孟彪				
古今印叢 河井荃廬 咸休無窮				
耕沖画伯逝く		国民新聞		M 44・1・25
山田寒山墨竹 辛亥元旦				M 44
東京 山田寒山 銅章 恭賀新年		巖手日報		M 44・1・1
古今印叢 椿所岡本義邦刻 奏萬年春		国民新聞		M 44・1・1
古今印叢 椿所岡本義邦刻 奏萬年春		国民新聞		M 44・1・3
古今印叢 皇帝萬歳（椿所）		国民新聞		M 44
古今印叢 中宣王餐（蘭台）		国民新聞		M 44
古今印叢 山田寒山刻 五祀六宗		国民新聞		M 44・1・30
山田寒山氏筆 3点		巖手日報		M 44・1・1
随鵬吟社聯句（九月十一日於上野三宣亭）		萬朝報		M 43・9・16
同好印会出品物		東京日日新聞		M 43

新聞見出し		新聞名		発行年月日	
蘇州の勝を探る留園、寒山寺、虎邱	中外商業新報	M43・7・8			
杏林餘影 同題 寒山 山田潤	日本医事週報				
健筆会を評す（九） 靈山	やまと新聞	M43・6・25			
健筆会展覧会	萬朝報	M43・6・21			
美術界 健筆会の閉会と揮毫	東京日日新聞	M43・6・26			
女優九女八の席画	やまと新聞	M43・6・19			
みだれ箱 健筆会の揮毫	東京二六新報	M43・6・20			
当選鉄筆 丁未印社選 寒山 信濃山田逸亭 青山白雲	国民新聞	M43・6・19			
第二回健筆会（二） 瑞穂	東京日日新聞	M43・6・18			
健筆会を評す（一） 靈山	やまと新聞	M43・6・12			
健筆会を評す（二） 靈山	やまと新聞	M43・6・13			
健筆会を評す（三） 靈山	やまと新聞	M43・6・14			
健筆会を評す（四） 靈山	やまと新聞	M43・6・15			
健筆会を評す（五） 靈山	やまと新聞	M43・6・17			
健筆会を評す（六） 靈山	やまと新聞	M43			
よもやま 健筆会	萬潮新聞	M43・6・9			
美術界風聞録	報知新聞	M43・6・8			
美術界	中央新聞	M43・6・8			
藤公詩存 柏軒生		M43・8・1			
健筆会の余興	国民新聞	M43・6・8			
健筆会の余興	中外商業新報	M43・6・8			
細川男喜の賀延	東京日日新聞	M43・6・6			
細川男喜寿賀延	やまと新聞	M43・6・6			
寒山の陶友会	中外商業新報	M43・6・6			
四方八方 山田寒山和尚は：	国民新聞	M43・5・31			
細川男の壽延	東京毎日新聞	M43・5・31			
貿易新報紀念号祝詞 寒山田潤	貿易新報	M43・5・31			
安静斯世を謝す 小野湖山翁の遺言	報知新聞	M43・5・31			
肅然かな追弔式	貿易新報	M43・5・31			

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
伊藤公の官暦(一)	中央新聞		
夫人また偉傑 山田寒山氏の訪問談	中央新聞		
藤公の撰べる鐘銘	中央新聞		
七番日記 一茶研究の好資料	長野毎日新聞		
公の詩才	讀賣新聞		
印譜の由来「山田寒山氏談」	やまと新聞		
滄浪閣印譜 自己亥歳晩至庚子仲春間製 寒山田潤			
変物画伝(一)(伊藤公に愛せらる) 楽焼の寒山師			
閑話休題 陶友会の席上:	国民新聞		
春畝公の俳句 思出多き後の月 東松露香	信濃毎日新聞		
当選鉄筆 丁未印社選相模土橋香雲(寒山、椿所) 嘉福成基			
伊藤公の印章三顆「山田寒山刻」	東京朝日新聞		
追悼の詩歌二、三 山田寒山	中外商業新報		
山田寒山墨竹百幅之一	中外新聞		
寒山百幅会好況	国民新聞		
山田寒山墨竹百幅之一			
墨竹百幅会	秋田魁新聞		
寒山和尚の年賀状	新愛知新聞		
古今印叢 山田寒山刻 福壽無量	国民新聞		
扇づくし 竹石	扶桑新聞		
鐵筆 樸華福 辛亥十二月 玉池老人	M 45		
古今印叢 静嘉 壬子一月 岡本椿所篆	M 45		
日本書道会	報知新聞		
日本書道会新年発会	東京日日新聞		
古今印叢 江佐馬生 完白山人刻 九節丈人	M 45・2・7		
豆州仁科より 釈宗演	報知新聞		
奇人横川無角逝く	中外新聞		
横川無角氏逝く	朝日新聞		
横川無角が死んだ:	萬朝報		

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
崎人竹庵先生 寒山の引導で大往生	国民新聞		
酒仙横川無角 熱燗一杯で大往生	報知新聞		
皇帝萬歳 寒山山田潤 明治四十五年紀元節拝刻	国民新聞		
滑稽二人画会	報知新聞		
文芸界 素人書画会	やまと新聞		
問答無聲 山田寒山氏筆	やまと新聞		
鳥迹釵形 山内敬齋刻 隠凡亦無心	やまと新聞		
勸業展覧会の書道	報知新聞		
扇づくし 山田寒山氏筆 松溪雲泉	新愛知新聞		
古今印叢 蘭台篆 水流任:	国民新聞		
焼くが染みの楽焼	東京毎日新聞		
東京勸業展覧会 来る廿日開会式			
東京勸業展覧会開会式	時事新聞		
勸展開場式	報知新聞		
土人形が大評判	国民新聞		
閑話休題 黄檗宗:	国民新聞		
古今印叢 寒山田潤 高僧日日入山門 壬子四月上浣製	国民新聞		
東郷大将の醉筆	大阪時事新聞		
古今印叢 寒山田潤 湘水忠臣 壬子端午製			
勸業展覧会の書幅(下) ○△生	時事新聞		
画伯跣足の会	報知新聞		
第四回健筆会	東京朝日新聞		
東京勸業展覧会授賞式	国民新聞		
若葉の不忍池畔	やまと新聞		
古今印叢 椿所岡本義邦 晴日暖風生麥気 壬子初夏	国民新聞		
古今印叢 寒山田潤 無事看山 壬子初夏	国民新聞		
故清水氏追悼大法会	馬關毎日新聞		
健筆会	国民新聞		
新刊批評 健筆帖	国民新聞		

健筆会を観る	新聞見出し	東京朝日新聞	M45・5・25
碧巖会提唱	国民新聞	M45・5・27	
健筆会を観る	国民新聞	M45・5・29	
健筆会を観る	讀賣新聞	M45・5・31	
乾山忌	報知新聞	M45・6・3	
乾山忌と遺作展観	時事新報	M45・6・4	
趣味深き乾山忌	東京朝日新聞	M45・6・4	
乾山忌修行	東京二六新聞	M45・6・4	
日本書道会展覧会	報知新聞	M45・6・14	
随鷗吟社例会聯句	時事新聞	M45・6・11	
寒山墨竹十萬講	国民新聞	T1・12・18	
寒山寺墨竹十萬講	やまと新聞	T1・12・18	
寒山和尚の年賀状墨竹十萬講	報知新聞	T1・12・18	
山田寒山は…	萬朝報	T1・12・19	
寒山詩墨竹画会	時事新聞	T1・12・19	
混つ返しの寄せ書き	報知新聞	T1・12・	
寒山寺墨竹十萬講	東京朝日新聞	T1・12・20	
墨竹十萬講	浜松新聞	T1・12・22	
美術界だより 寒山の墨竹十萬講	横浜貿易新聞	T1・12・21	
寒山寺と十萬講	函館新聞	T1・12・21	
日本寒山寺建立	扶桑新聞	T1・12・21	
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講主意書	新愛知新聞	T1・12・23	
寒山墨竹十萬講	中外新聞	T1・12・23	
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講主意書	新愛知新聞	T1・12・26	
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講主意書	新愛知新聞	T1・12・29	
寒山寺墨竹十萬講	上毛新聞	T1・12・25	
寒山寺と十萬講	東京二六新報	T1・12・22	
日本寒山寺建立計画	山形日報	T2・1・7	
記念書画大展覧会		T2・1・7	

山田寒山師の…	新聞見出し	東奥日報	T2・1・
日本寒山寺建立	西肥日報	T2・1・9	
寒山寺墨竹十萬講	呉公報	T2・1・9	
日本寒山寺建立	西羽寒業新聞	T2・1・9	
寒山師の墨竹十萬講	伊勢朝報	T2・1・9	
寒山寺十萬講	山陰新聞	T2・1・9	
墨竹十萬講	北羽新報	T2・1・10	
日本寒山寺十萬講	函館毎日新聞	T2・1・7	
閑文字	岩手日報	T2・1・8	
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講主意書	新愛知新聞	T2・1・12	
寒山寺建立十萬講	高田日報	T2・1・7	
寒山黒筑十萬講	信濃日報	T2・1・6	
山田寒山師十牛の一つ柳につなぎけり		T2	
日本寒山寺建立計画	山形日報	T2	
日本寒山寺建立計画	馬關毎日新聞	T2・1・7	
日本寒山寺の建立	東海新聞	T2・1・10	
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講	羽後新聞	T2・1・12	
本社主催書画展覧会寄贈諸家	富山日報	T2・1・13	
出版界 印章備正	東京朝日新聞	T2・1・28	
日本寒山寺建立	西肥日報	T2・1・9	
日本寒山寺建立化縁	土陽新聞	T2・1・12	
日本寒山寺と十萬講	大連遼東新報	T2・1・24	
寒山和尚墨竹画講	北海タイムス	T2・1・31	
亀谷省軒翁葬儀	中央新聞	T2・2・4	
山田寒山筆 墨竹画	富山日報	T2・2・1	
亀谷省軒翁の葬儀	やまと新聞	T2・2・5	
寒山の竹	京橋新聞	T2・2・1	
日本寒山墨竹十萬講	新愛知新聞	T2・3・9	
山田寒山居士墨竹	北海タイムス	T2・3・12	

		新聞見出し	新聞名	発行年月日
		山田寒山漢詩聯句	国民新聞	T2・3・7
		虎も蝦蟇も目高も眼玉は共通	報知新聞	T2・3・8
		日本寒山寺墨竹十萬講	新愛知新聞	T2・4・3
		蘭亭修楔記念会	時事新報	T2・4・5
		茂木家の襲名披露	横浜貿易新報	T2・4・4
		蘭亭修楔記念会	中外商業新報	T2・4・5
		素人画会	報知新聞	T2・4・17
		蘭亭修楔記念会	やまと新聞	T2・4・5
		山田寒山随◆吟社第八十七回例会七言絶句聯句	国民新聞	
		天龍厚き選書会	国民新聞	T2・4・29
		山田寒山随◆吟社第八十七回例会七言絶句聯句	新愛知新聞	T2・4・19
		北越名流遺芳富益斎	北越日報	T2・5・30
		中村蘭臺印章備正	北越日報	T2・5・30
		中央舞台の愛知県人(四十八) 山田寒山	新愛知新聞	T2・5・30
		寒山和尚絶命の祈禱	浜松新聞	T2・5・31
		二奇人の来演	浜松新聞	T2・5・31
		美術界の笑話	新愛知新聞	T2・5・31
		蘭亭修楔記念会	東京朝日新聞	T2・4・4
		健筆会	東京朝日新聞	T2
		第五回健筆会	国民新聞	T2
		美術界 健筆会の前景季気	日本	T2・6・11
		健筆会の余興	国民新聞	T2
		新刊紹介白真弓	日本	T2
		山田寒山漢詩 題健筆会出品画竹似山田寒山	甲州新聞	
		健筆会を見る(中)	国民新聞	
		美術界	国民新聞	T2
		朝日柳壇 健筆会所見	東京朝日新聞	T2
		健筆会展覧会	萬朝報	T2・6・28
		文芸美術 健筆会会場揮毫会	やまと新聞	T2・6・29

		新聞見出し	新聞名	発行年月日
		健筆会場揮毫会	報知新聞	T2・6・28
		健筆会場の揮毫会	国民新聞	T2・6・28
		はがきだより	国民新聞	T2・7・2
		寒山墨竹十萬講	国民新聞	T2・7・5
		寒山墨竹十萬講	北越日報	T2・7・9
		支那勝地歴遊	門司新報	T2・11・18
		法書会揮毫会		
		高芙蓉百三十年祭	報知新聞	T2・11・18
		鉄網珊瑚 山田寒山漢詩	やまと新聞	T2・3・9
		山田寒山翁筆	やまと新聞	T3・3・24
		大正博入選篆刻	国民新聞	T3・3・28
		大正博覧会 大正博の「篆刻」	都新聞	T3・4・21
		寒山書画屏風分配	やまと新聞	T3・4・24
		大正博の美術(十八) 篆刻	国民新聞	T3・5・5
		風流梵鐘物語	大阪日日新聞	T3・6・16
		寒山寺の新梵鐘	大阪朝日新聞	T3・6・23
		大正博の「篆刻」	都新聞	T3・4・21
		寒山書画屏風分配	やまと新聞	T3・4・24
		墨竹を以て鳴つた山田寒山和尚:	国民新聞	T3・4・26
		寒山屏風画会	横浜貿易新報	T3・4・29
		中央舞台の愛知県人協僧侶 山田寒山	新愛知新聞	T3・5・5
		寒山屏風百双会	新愛知新聞	T3・5・1
		山田寒山氏	時事新報	T3・5・1
		大正博の美術(十五) 書(下)	国民新聞	T3・5・2
		寒山氏書画分配	都新聞	T3・5・6
		大正博の美術(十六) 篆刻	国民新聞	T3・5・5
		大正博の篆刻	東京日日新聞	T3・6・20
		「皇誤恢宏」「国運開展」寒山田潤製		
		鉄筆「古稀鳴鶴」河井遷	北越新聞	T3・1・13

新聞見出し	新聞名	発行年月日
鉄筆「澹焉守幽香」香遠寒山老納云：	北越新聞	T 3・1・20
鉄筆「今朝無事役睡足亦君恩」岡本椿處	北越新聞	T 3・2・3
鉄筆「露」濱村蔵六刻	北越新聞	T 3・2・10
天祐新聞発行	天祐新聞	T 3・2・14
鉄筆「南山老柄」山田潤	北越新聞	T 3・2・17
鉄筆「寒香吹返十三春」江東散人寒山老納云：	北越新聞	T 3・2・24
鉄筆「南湖漁長」山本兩石篆	北越新聞	T 3・3・3
鉄筆「舊知山川」太田夢庵寒山老納云：	北越新聞	T 3・3・24
鉄筆「觀自在」池無名篆	北越新聞	T 3・3・17
鉄筆「人道我則噫」香遠刻寒山老納云：	北越新聞	T 3・3・31
鉄筆「柳緑花紅」山田寒山篆	北越新聞	T 3・4・7
鉄筆「雲無心」阿波廣山古山 寒山老納云：	北越新聞	T 3・3・14
鉄筆「鶴鳴于九臯」高芙蓉刻	北越新聞	T 3・4・21
鉄筆「神州男子雄如許」高畑翠石	北越新聞	T 3・4・28
鉄筆「一山一水」紀伊北條中山寒山老納云：	北越新聞	T 3・5・5
鉄筆「難與俗論」中村蘭臺	北越新聞	T 3・5・12
鉄筆「窓下清風」東京久志本梅莊	北越新聞	T 3・5・19
鉄筆「醉世」山陽寒山老納云：	北越新聞	T 3・7・14
鉄筆「心安身自安身安室自」高畑翠石寒山老納云：	北越新聞	T 3・6・30
鉄筆「松吹說法度生聲」寒山山田潤篆	北越新聞	T 3・5・21
鉄筆「混而知處」中村蘭臺	北越新聞	T 3・5・26
鉄筆「以雲爲水」東京星石道人	北越新聞	T 3
鉄筆「雨艸烟苔」東京伊藤古屋	北越新聞	T 3・6・2
鉄筆「天真獨朗」東京郡司梅所	北越新聞	T 3
鉄筆「永永萬年」下総八木春雲寒山老納云：	北越新聞	T 3・6・16
鉄筆「翠玉壺之水爛遥臺之月」澤安親篆	北越新聞	T 3・6・23
鉄筆「江風引雨入船涼」東京村田蔚堂	北越新聞	T 3
鉄筆「忘」巖谷一六寒山老納云：	北越新聞	T 3
鉄筆「行雲流水」敬所陳人	北越新聞	T 3

新聞見出し	新聞名	発行年月日
鉄筆「蔵六居」橘茂喬	北越新聞	T 3
鉄筆「爲守道貧」寒山老納云：	北越新聞	T 3
鉄筆「空山華開水流」遇所居士	北越新聞	T 3
鉄筆「游方之外」寒山老納云：	北越新聞	T 3
鉄筆「胡人入漢」宗星石	北越新聞	T 3
改春鉄筆「春敬所風寒山致筌廬和香遠」	北越新聞	T 3
鉄筆「新年佛法如何問依舊今朝日」寒山田潤	北越新聞	M 41・1・1
丁未印社	中央新聞	M 41・1・8
文芸界丁未印社	日本	M 41・1・8
古今印叢暗香浮動岡本椿所篆		T 1・2
明治天皇山田潤謹製	国民新聞	T 1・9・13
聖壽無疆寒山田潤謹篆	国民新聞	T 2・10・31
大正博の篆刻	東京日日新聞	
長寿者実話（一）	報知新聞	
長寿者実話（二）長寿者萬平の記録に就て	報知新聞	
長寿者実話（三）白幽仙人の秘伝	報知新聞	
長寿者実話（四）些字と長寿（上）	報知新聞	
長寿者実話（五）些字と長寿（中）	報知新聞	
長寿者実話（六）些字と長寿（下）	報知新聞	
長寿者実話（十三）衛生呼吸法数則（中）	報知新聞	
当選第三等日清学生病院院長 森山麟次郎	報知新聞	5・7
当選第三等（統）日清学生病院院長 森山麟次郎	報知新聞	5・8
当選第三等（統）日清学生病院院長 森山麟次郎	報知新聞	5・9
当選第二等北海道小野篁村	報知新聞	5・10
当選第二等（統）北海道小野篁村	報知新聞	
当選第二等（統）北海道小野篁村	報知新聞	
当選第一等（一）東京三刀谷扶綱	報知新聞	5・14
当選第一等（統）東京三刀谷扶綱	報知新聞	
当選第一等（二）東京三刀谷扶綱	報知新聞	

新聞見出し	新聞名	発行年月日
当選第一等（四）東京三刀谷扶綱	報知新聞	
当選第一等（五）東京三刀谷扶綱	報知新聞	
当選第一等（六）東京三刀谷扶綱	報知新聞	
美術界	国民新聞	T 4・2・28
長山寒山寺行	国民新聞	T 4・3・6
日本寒山寺建立	中外商業新報	T 4・3・9
寒山寺建立	新愛知新聞	T 4・3・10
日本寒山寺建立	新総房	T 4・3・10
日本寒山寺	新潟新聞	T 4・3・15
日本に寒山寺が出来る	実業報知新聞	T 4・3・15
日本寒山寺建立	新潟毎日新聞	T 4・3・15
九官鳥芸妓家主人の発心	中外商業新報	T 4・3・18
美術界	国民新聞	T 4・3・30
美術消息	報知新聞	T 4・4・17
寒山和尚の女弟子	中外商業新報	T 4・4・18
女将の逸話（一）	中外商業新報	T 4・4・18
女将の逸話（二）	中外商業新報	T 4・4・19
開通せる武蔵野鉄道	中外商業新報	T 4・4・22
文芸消息	時事新報	T 4
寒山氏の墨竹画	世界	T 4・5・9
三十三間寶塔建立	萬朝報	T 4・5・9
墨竹十萬講	東京毎日新聞	T 4・5・9
文芸美術寒山の墨竹十萬講	やまと新聞	T 4・5・9
寒山翁墨竹十萬講	時事新報	T 4・5・9
寒山和尚の墨竹	国民新聞	T 4・5・7
寒山寺建立墨竹十萬講	東京朝日新聞	T 4・5・10
寒山和尚の墨竹十萬講	都新聞	T 4・5・10
寒山寺建立十萬講	中央新聞	T 4・5・10
斯華会大会	中央新聞	T 4・5・10

新聞見出し	新聞名	発行年月日
芸術墨竹十萬講	東京日日新聞	T 4・5・11
寒山墨竹十萬講	中外商業新報	T 4・5・12
寒山寺の墨竹	讀賣新聞	T 4・5・12
寒山寺建立化縁揮毫	浜松新聞	T 4・5・12
山田寒山師：	千葉毎日新聞	T 4・5・12
寒山寺の設立	武相新報	T 4・5・11
寒山の墨竹画	柏崎日報	T 4・5・12
日本寒山寺建立地を下総長山に相す	長野新聞	T 4・5・12
日本寒山寺建立化縁墨竹十萬講主意書	甲斐新聞	T 4・5・12
墨竹十萬講	鷲城新聞	T 4・5・13
寒山墨竹十萬講	吳公論	T 4・5・13
墨竹十萬講	北羽新報	T 4・5・13
寒山寺建立十萬講	三重新聞	T 4・5・14
日本寒山寺の建立	湖南日報	T 4・5・14
日本寒山寺設立	群馬新聞	T 4・5・12
寒山寺墨竹十萬講	商業新報	T 4・5・15
寒山寺十萬講	馬關毎日新聞	T 4・5・13
寒山寺建立十萬講	名古屋新聞	T 4・5・13
寒山墨竹十萬講	新総房	T 4・5・13
日本寒山寺建立	上毛新聞	T 4・5・13
寒山寺の建立	秋田魁新報	T 4・5・15
日本寒山寺建立	長野新聞	T 4・5・12
寒山寺建立墨竹十萬講	仙台日日新聞	T 4・5・16
寒山寺の建立	北海タイムス	T 4・5・27
寒山寺建立と揮毫頒布	横浜新聞	T 4・6・1
第六回健筆会	東京朝日新聞	T 4・6・6
寒山寺建立と揮毫頒布墨竹	北海めぐまし	T 4・6・12
書道群馬支部発会	群馬新聞	T 4・6・23
墨竹十萬講	北海旭新聞	T 4・5・19

寒山と俳句会	新聞見出し	新聞名	発行年月日
第七回健筆会	高田日報	T 4・7・21	
寒山翁歓迎会	讀賣新聞	T 4・6・10	
寒山氏招待句会	新潟毎日新聞	T 4・8・2	
墨竹十萬講	高田日報	T 4・7・22	
山田寒山氏来る	北越新聞	T 4・8・5	
山田寒山翁来る	新潟毎日新聞	T 4・8・7	
山田寒山氏近作	新潟新聞	T 4・8・7	
寒山和尚招待会	新潟毎日新聞	T 4・8・8	
来越中の山田寒山氏筆	北越新聞	T 4・8・18	
寒山翁歓迎会	新潟新聞	T 4・8・2	
花香竹色 竹香二男木村正平篆(十七歳)	新潟新聞	T 4・9・3	
山田寒山翁談	北越新聞	T 4・9・3	
寒山化縁(上)	北越新聞	T 4・9・7	
和答猗々軒主人	北越新聞	T 4・9・20	
日本寒山寺別院墨竹十万講申込所 表具師丸山龍朔	北越新報	T 4・9・19	
日本寒山寺別院墨竹十万講申込所 印師木村竹香	新潟新聞	T 4・10・12	
良寛遺愛の笏に就て	北越新聞	T 4・10・9	
日本寒山寺別院墨竹十万講申込所 印師木村竹香	新潟新聞	T 4・10・11	
墨竹漫◆	北越新聞	T 4・9・30	
御大禮記念幅 寒山翁の篆刻揮毫	北越新聞	T 4・10・11	
文展選外品展覧会	報知新聞	T 4・10・22	
山田寒山来津	新潟毎日新聞	T 4・10・23	
寒山和尚画会	信濃毎日新聞	T 4・10・27	
芸術	東京日日新聞	T 4・10・28	
山田寒山氏：	北越新聞	T 4・11・5	
寒山和尚の画会	信濃毎日新聞	T 4・11・15	
寒山和尚の墨竹	佛教新聞	T 4・11	
寒山和尚の墨竹	長野新聞	T 4・11・15	

山田寒山筆	新聞見出し	新聞名	発行年月日
寒山和尚の口占	信濃毎日新聞	T 4・11・21	
寒山翁加茂に滞杖	新潟毎日新聞	T 4・12・9	
寒山翁の加茂滞杖	新潟新聞	T 4・12・7	
会合 寒山翁茶話会	新潟新聞	T 4・12・9	
加茂に於る寒山翁	北越新報	T 4・12・22	
鐵刀木の笏	北越新報	T 4・10・8	
乙卯晚秋北越客中值伊藤公七回忌辰賦奠寒山山田潤	北越新報	T 4・10・24	
寒山和尚画会	信濃毎日新聞	T 4・10・27	
贈寒山老師歩其近作韻 西郡能江	北越新報	T 4・11・2	
乙卯十一月念七夜。親菊於舟江中村医博仙露園寒山山田潤	北越新報	T 4・12・8	
寒山師面識会	越佐新報	T 4・1・4	
小須戸の寒山師面識会	北越新報	T 5・1・5	
寒山師面識会	新潟新聞	T 5・1・5	
北越道中遷新年	新発田新聞	T 5・1・1	
新潟詩壇 寄題開水園 寒山山田潤	新潟新聞	T 5・7・1	
寒山和尚加茂に滞杖	越佐新報	T 4・12・6	
山田寒山氏来らむ	新発田新聞	T 4・12・18	
寒山翁の加茂滞杖	新潟新聞	T 4・12・7	
拜良寛禪師墓 寒山山田潤		T 4・10・15	
寒山山田潤漢詩	北越新聞	T 5・1・8	
素岳梨岡壽 永受嘉福 木村正平 梅花経一雪	国民新聞	T 5・1・1	
明治三十年の春：	北越新聞	T 5・1・8	
寒山詩頒布	大阪新報	T 4・12・31	
小須戸春秋会	新潟毎日新聞	T 5・1・13	
小須戸春秋会	北越新報	T 5・1・12	
山横澤記念事業	北越新報	T 5・10・12	
小須戸春秋会設置	新潟新聞	T 5・1・13	
墨竹十萬講会員募集	伊予日日新聞	T 5・1・7	

北越巡錫の寒山氏	新聞見出し	新聞名	発行年月日
古み、山田寒山和尚の…	中外	毎夕新聞	T5・2・1
てびき	新潟毎日新聞	T5	
特別広告	新潟毎日新聞	T5・10・12	
加茂に於る寒山翁	北越新聞	T5・10・12	
山田寒山師の消息	新潟新聞	T5	
宿衲々軒憶鉄琴居士寒山山田潤	北越新聞	T5・2・18	
寒山氏講話会	北越新聞	T5・2・24	
森羅万象	北越新聞	T5・2・8	
漫語録	鶴岡日報	T5・1・13	
漢詩寒山山田潤 次孝純譚韵却寄	鶴岡日報	T5・1・15	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・3・4	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・3・5	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・3・7	
山馬の珍筆と相撲瓢	北越新聞	T5・3・8	
毎日詞壇	新潟毎日新聞	T5・2・28	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・3・15	
寒山翁三條へ赴く	北越新聞	T5・3	
寒山和尚来遊	三條時報	T5・3・17	
詩壇	新潟新聞	T5・3・24	
漢詩猗々軒主人批	北越新聞	T5・3・26	
寒山寺譚り			
有恒学舎創立二十年祝典賦贈			
寒山翁と滑川澹如		T5・4・11	
寒山翁歓迎会		T5・4・13	
風聞ろく		T5・4・13	
漢詩寒山山田潤		T5・4・12	
地藏堂の寒山翁		T5・春	
独立の報ある蘇州	報知新聞	T5・春	

彩霞十里の仙郷	新聞見出し	新聞名	発行年月日
富益斎と寒山	北越新聞	T5・春	
隣の噂	讀賣新聞	T5・5・19	
健筆会場の千枚書	毎夕新聞	T5・5・13	
吉田の寒山墨竹会	北越新聞	T5・5・19	
片貝の寒山会	北越新聞	T5・5・16	
寒山墨竹画会	北越新聞	T5・6・9	
いろいろ 吉田の寒山墨竹画会	新潟新聞	T5・6・7	
漢詩 玉川堂邂逅于寒山老禪賦贈 醉古赤川祥	北越新聞	T5・6・13	
巻町寒山会	北越新聞	T5・6・14	
山田寒山師来柏	新潟毎日新聞	T5・6・15	
吸とり紙	萬朝報	T5・6・17	
編集日誌	柏崎日報	T5・6・21	
山田寒山師画会	柏崎日報	T5・6・22	
柏崎寒山会	北越新聞	T5・6・23	
巻町の寒山画会	新潟毎日新聞	T5・6・25	
寒山氏の墨竹	北越新聞	T5・6・25	
寒山式の気焰	柏崎日報	T5・6・23	
山田寒山翁令嬢墨江女史(当時十四歳)の筆	北越新聞	T5・2・27	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・7・1	
寒山和尚艶聞	北越新聞	T5・7・2	
遜軒氏画寒山氏賛	北越新聞	T5・7・3	
寒山雅会	北越新聞	T5・7・9	
小千谷と寒山師	北越新聞	T5・7・14	
漢詩寒山山田潤	北越新聞	T5・7・31	
小千谷寒山和尚翁歓迎会	北越新聞	T5・7・28	
漢詩 渡邊燕生 寒山来漢詩 寒山老衲	北越新聞	T5・7・28	
山田寒山氏筆		T5・8・2	
漢詩 渡邊燕生	北越新聞	T5・8・2	

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
漢詩 寒山老衲		北越新報	T5・8・3
山田寒山氏		北越新報	T5・8・4
小波山人の俳句 印は寒山氏が刻して山人に贈れるもの		北越新報	T5・8・5
漢詩 岡部東雲 寒山老衲		北越新報	T5・8・9
漢詩 岡部東雲		北越新報	T5・8・11
山田寒山篆刻3額		北越新報	T5・8・10
寒山師の寄贈		北越新報	
閑話休題		国民新聞	T5・8・14
木村正平篆 谿雲初起日沈閣		新潟新聞	T5・8・16
啓々新緑の候 愈々御清祥奉慶賀候			
寒山墨竹画会			T5・5
漢詩 岡部東雲 呈山田寒山和尚		北越新報	T5・7・4
漢詩 寒山山田潤 島崎君峻哉惠高什		北越新報	T5・7・3
漢詩 寒山山田潤 岡部東雲翁辱寄一絶		北越新報	T5・7・12
羅漢松の笏		北越新報	T5・7・10
書画贈答		国民新聞	T5・8・9
風聞録 山田寒山和尚…		国民新聞	T5・8・14
漢詩 寒山老衲 春畝公滄浪杯小記		北越新報	T5・8・22
閑話休題		国民新聞	T5・8・24
風聞録 山田寒山和尚…		国民新聞	T5・8・24
山田寒山の秘蔵弟子…		越後タイムス	T5・8・27
涼を趁ふて		東京中外	T5・9・3
涼を趁ふて		東京中外	T5・9・4
坂田の大幟と寒山翁		北越新報	T5・9・3
滑川澹如氏筆		北越新報	T5・9・2
漢詩 小村有恒 次山田寒山翁宿北湯雲居詩韻		北越新報	T5・9・8
山田寒山師		北越新報	T5・9・15
寺泊と寒山和尚			T5・9・24
多賀家の寒山会		北越新報	T5・10・2

	新聞見出し	新聞名	発行年月日
多賀家の寒山会		北越新報	
漢詩 寒山山田潤		北越新報	T5・10・11
寒山師と糸魚川		北越新報	T5・10・29
糸魚川の山田寒山		高田日報	T5・10・28
漢詩 寒山山田潤			T5・11・1
漢詩 寒山山田潤		北越新報	T5・11・27
新年所見		三条時報	1・1
當町の良寛会		三条時報	1・3
如雲会の募集		三条時報	1・15
寒山師の屏風講		柏崎日報	1・15
良寛忌と展観		北越新報	1・8
寒山師翁の屏風講		北越新報	1・15
漢詩 寒山山田潤		北越新報	1・21
漢詩 寒山山田潤		北越新報	1・24
日本寒山寺建立の計画		北海タイムス	2・2
木村正平氏篆 四海皇風治		新潟新報	2・11
漢詩 山田寒山		北越新報	3・20
一日一人		北越新報	2・11
默鳳寒山法要大慈寺に於て		北越新報	2・11
良寛禪師法会		北越新報	2・11
元旦の聖		国民新聞	2・20
篆刻の名匠逝く			
古今一の印学者中井敬所翁の事 益田香遠老人の談話			
中井敬所翁の徳富社長に宛たる書簡の一節			
伊藤公の決別 公爵令息伊藤文吉談			
滄浪閣印譜			
鴻雪爪先生逝く			
野口寧斎氏逝く			
鉄筆閑話 山田寒山			

新聞見出し	新聞名	発行年月日
鉄筆閑話（山田寒山氏談話）		
鉄筆閑話《四》《山田寒山師談話》		
鉄筆閑話《五》《山田寒山師談話》		
小集の記五世蔵六氏記念合作		
閑話休題		
鴻雪爪翁（二）		
鴻雪爪翁（三）		
鴻雪爪翁（四）		
篆刻談（濱村蔵六氏談）		
濱村蔵六氏篆刻談（一）		
濱村蔵六氏篆刻談（二）		
濱村蔵六氏篆刻談（三）		
濱村蔵六氏篆刻談（四）		
濱村蔵六氏篆刻談（五）		
濱村蔵六氏篆刻談（六）		
濱村蔵六氏篆刻談（七）		
閑話休題		M 44・8・18
孝子貧家の門より出づ		
孝子良雄の表彰式		
孝子に寄贈金		
天下一品の交換手		
向山中将の薨去		
松島鑑上の勇士		
槐南博士逝く		
天下に及ぶ者無し 江木冷灰博士の談		
林田翰長の愛嬢に與へたる嫁の心得		
娘問題の総評 田所普通通学務局長談		
三千年前の人形 興味ある比較研究		
古今印叢 金冬心刻		
小野湖山翁逝く		M 43・4・13

新聞見出し	新聞名	発行年月日
漢詩人の大関 三島中洲博士の談		
一刀刻の鉄筆名家 菱刈雲仙氏の滞在		
楽焼の名人上京す 代々水戸家に信任厚き人		
国民文学 支那の土偶 中村不折氏談	国民文学	M 43・8・4
追加項目		
寒山寺建立墨竹十萬講	北海タイムス	
山田寒山葬儀	山梨日日新聞	T
日本寒山寺建立		1・19
山田寒山師葬儀	北越新聞	T
糸魚川の良寛：		
寒山和尚の消息	夕刊北越新報	T 8・3・28
寒山師追悼会	紀伊新報	T 8・1・22
山田寒山師逝く 二木嶋で式修行	国民新聞	M 41・7・5
寒山の状袋入	文芸美術	T 6・1・16
寒山寺建立化縁画会	国民新報	T 8・1・19
山田寒山師葬儀	中央新聞	T 8・2・27
山田寒山翁逝く	国民新聞	T 8・1・19
山田寒山師葬儀	秋田魁新聞	
山田寒山翁逝く	やまと新聞	T 1・・27
山田寒山翁逝く		T 5
乙川大愚篆 寒山批評	北越新聞	T・2・4
寒山和尚の消息	中外商業新報	M 43・1・8
庚戌元旦試筆	北海タイムス	10・31
天長節祝日（日の出）		T 6・・13
姑蘇城(5)寒山寺（上）落翠城	大阪毎日新聞	T 5・3・12
禪門の秘曲を吹く 寒山寺の大法要	大阪朝日新聞	T 5・3・12
十一日の寒山寺遠忌 尺八虚鈴の局 寒山寺鐘鐃披露		

山馬の珍筆と相撲飄	都新聞	T 6 ・ 13
笹岡の寒山翁		
寒山と恩賜芋	新發田新聞	T ・ 21
寒山翁の屏風講	北越新聞	T ・ 7・30
水原の寒山翁	新潟新聞	T ・ 1・30
山田寒山翁	新潟毎日新聞	T ・ 5・29
新發田寒山雅会	新潟新聞	T ・ 7・12
日本寒山寺建立	北越新聞	T ・ 7・17
寒山翁の加茂滞杖屏風講	山梨日日新聞	T ・ 1・15
芝田の楽焼雅会	北越新聞	T ・ 1・15
涼を趁ふて	新潟新聞	T ・ 7・25
三條の如雲会	中外商業新報	T 5
寒山翁来芝	北越新聞	T ・ 1・12
三條如雲会	新發田新聞	T ・ 6・22
水原の講演会	新潟毎日新聞	T ・ 1・15
村杉鉾泉と寒山翁	新潟新聞	T ・ 6・3
篆刻家画会	北越新聞	T ・ 6・14
山田寒山師	北越新聞	T ・ 7・23
山田寒山翁近況	新潟新聞	T ・ 6・22
新發田の寒山画会	北越新聞	T ・ 7・12
寒山師の村松巡錫	新潟毎日新聞	T ・ ・24
寒山師講演会	新潟日報	T ・ 4・28
墨竹十万講	新潟毎日新聞	 ・ 4
文芸美術 日本寒山寺建立屏風講	都新聞	T 6
寒山寺墨竹十万講	横浜貿易新報	T 6・1・16
日本で寒山寺建立		T 6・1・21
東亜美術会起る	山陰新聞	T 5・1・9
蓮池を抱く大不夜城に歎語談笑の影	世界新聞	T 6・2・5
悼山田寒山 川柳久良岐岐		M 44・7・29
新聞見出し	新聞名	発行年月日

姑蘇城（五）寒山寺（上）	新聞見出し	
姑蘇城（九）霧の夜		
都新聞	新聞名	発行年月日